



*大塚会長 新年の挨拶



「男の居場所」の会の会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年の元旦は「平成」で始まりましたが、5月1日から「令和」に元号が変わるという大きな変化の年でした。また昨年は東日本では度重なる台風等で大きな被害が発生しましたが、幸い京都地方は大した災害もなく令和2年の正月を迎えることが出来、喜ばしい限りです。本会も今年の11月には設立満17年を迎えます。

今まで積み上げてきた各種事業のうち自我自賛展やサポセンフェスタ協賛事業等は会員だけでなく地元住民の皆様からも楽しみにされています。これら事業だけでなく毎週の定例会、皆でわいわい楽しむ全体事業等を通じて会員は体感を醸成してきています。我々はこれらの実績を踏まえ、今年も会員各自が本会会則と定例会のマナーを守りながらも自由闊達な市民活動団体として更に成長出来るよう努力を重ねていきたいと考えています。一方、今年は夏には東京オリンピックが開催されますが、前回、我々が若かりし頃見た名選手、名場面を思い出すとともに、今回も世界の超一流のアスリート達の競技を、テレビ等で観戦し、感動をもらいたいものです。

*2020年初詣は、どこへ行かれますか

お正月を迎え長岡京市民は、長岡天満宮にはたいていの人が元旦初詣されます。しかしゆったりしたお参りは、朝8時前後が最適です。大晦日の夜は大変な人出となります。次に氏子神社ですね、小倉神社・神足神社・あかね神社・角宮神社・子守勝手神社・走田神社・御谷神社ですね。特ダネですが、すごい神社が京都府亀岡市にある。「出雲大神宮」です、島根県の出雲大社と同じく、縁結びにご利益があり信仰を集めています。また、近年になり著名人が「京都で一番のパワースポット」として紹介して以降、口コミで急激に参拝者が増加しており、注目度がUP！パワースポットがひしめく京都の中でも頭角を現しつつある「出雲大神宮」です。そもそも現在の出雲大社が“出雲大社”と名乗り始めたのは明治になってから。古くから、ずっと“杵築大社”と呼ばれていたのです。杵築大社が出雲大社と名乗るようになり、出雲大神宮はそれまで出雲神社と名乗っていたのを出雲大神宮と言うようになったのです。それゆえに「元出雲」とも呼ばれているのです。是非今年も、こちらへ初詣しては如何でしょうか。車では、千代川ICから国道9号へ、JR亀岡駅からバスも出ています。



*2020年を迎え「男の居場所」の会の展望 (2019/11/21 定例会からの皆さんの意見です。)

＝「男の居場所」の会に参加の意義や良い点、改めた方がいい点＝

- ① 地元長岡京市には知人が、2～3名だったのが、44名に増えました。
- ② 色々な分野で活躍したノウハウや健康等の知識が増し、ちょっとした相談相手が増えました。
- ③ 自由参加の分科会に色々参加でき、趣味が広がった。コーラス合唱・歴史散歩や楽飲会・吹き矢・グランドゴルフや冥途の土産等々非常に楽しみにしている方々が多かった。
- ④ 3分間発表で、考えをまとめ他人に話すことがすごく良く、ボケ防止にもなる。



- ⑤ 元気で自由な雰囲気が良い。
- ⑥ 趣味ではなく、お話し中心の井戸端会議が良い。
- ⑦ 自慢話がなく、元気をもらえる会です。

＝今後改善について検討事項、将来にむけてのテーマ＝

- ① やや一方向で話を聞いて終わりなので、双方向性・討議機会の確保等が必要ではないか。
- ② 平均参加者約32名であり、平均年齢も高齢化しているため、会員の新規募集（新聞・ホームページ・チラシ）が必要です。
- ③ 会員と高齢者の為の準会員に分けて、希望者には準会員として月に1回参加して討議（例えば金曜日とか、テーマは、会員の月の4つの中から1つ選んで実施したらいいのでは）
- ④ 今の会員の輪を拡充して、外へのアピールをして社会参画・ボランティア活動を活性化する。
- ⑤ テーマは3週間前に提出し、十分に検討して許可することに努力しよう。
- ⑥ 一緒に食べる会や旅行する会を企画、読んだ古本の交換会等を企画してみてもいい。

上記が、11月21日の意見ですが、昨年8月8日の定例会で、『「男の居場所」の会に今後何を期待しますか』について会員の皆様が意見を発表されています。両方の意見は、ほぼラップしていますが、皆様がこの会は、「**自分の意見が言え、お喋りが出来、分科会で、いろんなことが楽しめ、お友達が増え、最高の会なので、これを維持すべきだ。**」と言っておられます。しかし、この会の高齢化は凄く、平均年齢は、12月で78.06歳です。このままでは、全くの先細りで希望を叶えられそうにもないです。2020年の新年を改革の年として全員一丸となって、これからもリフレッシュな希望の会になるように努力していきましょう。

*会員リレー投稿記事 最近思うことなど (森 英彦氏投稿)

近頃私は死というものをもそんなに恐ろしく思わなくなった。以前は、あんな死の恐怖について考え、ことあるごとくに死に結びつけていたのですが、思いがけず来る黒枠のハガキに、親しかった人々、尊敬する先輩、敬愛した後輩等の訃報、それも奥様のことばを添えて、やがて私とも思おうが、まだまだと打ち消す。



私は、あまり病気をしないが、横になった時には、不思議に心の落ち着きを覚える。多忙な日々の生活では考えない死が、愛され、愛した人々、親しかったやから達の死を耳にすると、死の恐怖が逆に薄らいでいくように思う。孔子のことばに「未だ生を知らず、焉(いず)くんぞ死を知らん」生を知らずして死がわかるわけがない。まだまだ生きたい。生を実感したい。実母は、百歳を超えてなくなった。死の恐怖が薄らいだのは、早逝した人々との再会できるという希みもある。

遠からずして！！

*分科会紹介 囲碁クラブ (是永 英明)

令和とともに分科会に囲碁クラブが誕生して、毎週第2週木曜日の午後6～9名の会員が参加して碁盤に火花を散らして、無我夢中、童心に戻り、爽快な気分を味わっております。361か所と打つ手は、無限大にあり、正解は見つからない世界で、相手の手を模索想像しながら集中力・粘り強さを鍛え、ストレス解消・ボケ防止にも役立っております。2人ペアで9マスゲームから、初心者でも軽易に始めることができます。チャレンジ希望者募集中ですので、是非見学をお願いします。未永く楽しめますよ。